

「独兵慰靈碑清掃は交流の象徴」



# リュ市民、訪問の鳴門住民に

贈られた。70年にわたって慰靈碑の墓石を継けてきた高橋さん一家の奉仕活動を継いだ住民への感謝の気持ちが込められている。

寄付を受けたのは、催の夕食会で寄付金が板東地区の住民らでつくる「ドイツ兵慰靈碑 協会のフォルカ・清掃奉仕団」。鳴門市によると、市親善使節団がリューネブルク市を訪問していた25日、現地住民からなるリューネブルク獨日協会主ゲバル会長が、「慰靈碑は独日交流のシンボルだ。慰靈碑の保護活動を地域で受け継いでくれてうれしい。交流が

ドイツ兵慰靈碑 高さ2.6m、幅と奥行きは1.1m。病気などで亡くなった戦友11人の冥福を祈り、板東収容所の捕虜が第1次大戦終結後の1919年8月に建てた。48年に地元の高橋春枝さん(故人)がやぶに埋もれた碑を見つけて夫と一緒に墓守を始めた。その取り組みがドイツに伝わり、今まで続く日独交流が復活した。

鳴門市大麻町の板東俘虜収容所跡にある、ドイツ兵慰靈碑を清掃しているボランティア団体に、姉妹都市のドイツ・リューネブルク市と市民から寄付金260000円（約31万円）が贈られた。70年にわたりて慰靈碑の墓守を続けてきた高橋さん一家の奉仕活動を継いだ住民への感謝の気持ちが込められている。

念企画展「捕虜が残した宝物」（10月27日まで）が開かれている。献花式は慰靈碑前で、行い、大阪・神戸ドライツ総領事館の首席領事らが参列する。一般献花は31日前11時35分

献花式や音楽祭  
鳴門市記念行事  
ドイツ兵慰靈碑が21  
日に建立から100年  
を迎えるのに合わせ、  
鳴門市は記念行事とし  
て献花式と音楽祭を催  
す。市ドイツ館では記

奉仕団は板東地区の  
「い」と読した

(秋月悠  
て  
いる

トイツ館は一敵國の  
收容所に仲間の慰靈碑

一ネブルク市では保護の取り組みに感激してくれる。期待にこえられるよう頑張ります。

い」とあいさつ。使節 治振興会を中心に、鳴 年少女合唱団が再現す  
団に参加していた奉仕 門西ライオンズクラブ る。「第九」や「ドバイツ  
団副会長の木村正美さ や板東小学校など13団 民謡なども歌う。  
ん(63)―大麻町板東= 体・10人で昨年11月に 企画展では、慰靈碑  
に寄付金を渡した。 発足した。父母の代か の着工から完成までの  
木村さんは「突然の ら碑の供養を受けた高 経緯や、元捕虜と市民  
申し出に驚いた。リュ 橋敏夫さん」昨年10月 の交流の歴史をパネル



町時盗たヒルが町1

がい道る いは捕し疑飲建島山にひ